

# < 農村計画課 >

農業農村整備の計画的推進により、生産性の高い農業構造の確立と豊かで魅力ある農村づくりを進めます。

－ 農村計画課 －

## 1 重点目標

- ① 農業農村整備事業の計画的推進
- ② 地籍の明確化
- ③ 農政水産部関係公共工事の円滑な推進
- ④ 畑地かんがい営農の推進

## 2 令和6年度事業の概要

### ① 農業農村整備事業の計画的推進

- 農業農村整備実施計画策定事業 31,500千円【計画調整担当】  
 県営経営体育成基盤整備事業などの農業生産基盤整備を実施するために必要な実施計画書を作成する。
- 県単農業農村整備実施計画策定事業 25,180千円【計画調整担当】  
 農業農村整備事業の実施要望地区において、市町村が事業採択前に行う各種調査や基本計画作成に係る経費を支援する。
- ㊦ 基盤整備プランニング事業（168鈞） 3,000千円【計画調整担当】  
 整備後のイメージ図作成等を支援・提供することで、基盤整備事業の機運醸成および実施につなげ、農地の区画拡大を通じた集積・集約化による地域計画の実現を目指す。

### ② 地籍の明確化

- 地籍調査事業（176鈞） 1,049,957千円【国土調査担当】  
 国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するとともに、「土地の戸籍」といわれる地籍の明確化を図る。

### ③ 農政水産部関係公共工事の円滑な推進

- 公共工事品質確保強化事業 14,225千円【技術管理担当】  
 公共工事の品質を確保するため、施工体制監視チームによる施工現場の重点点検を実施し、適切な現場指導を行うことにより、発注者及び受注者双方の更なる技術力の向上と工事現場における適正な施工体制の確立を図る。

③ 農業土木の魅力発信・人材確保事業（170万円） 1,991千円【技術管理担当】  
 近年の「激甚化し農産物の生産基盤の整備等」を担う、県内で活躍する官・民を含めた農業土木  
 農業者の人材を確保する。

④ 畑地かんがい営農の推進

○ 水利施設管理強化事業 80,066千円【畑かん営農推進担当】  
 農業水利施設の有する多面的機能の適正な発揮を図ることを目的として、国営事業等  
 造成された施設の管理費の一部補助を行う。

○ 基幹水利施設管理事業 127,231千円【畑かん営農推進担当】  
 国営事業で造成された施設に対し、農業用水の安定供給、地域の防災、環境保全等の機  
 能強化を目的とした管理費の一部補助を行う。

○ 畑かん活用農業経営体チャレンジ支援事業（172万円） 5,378千円【畑かん営農推進担当】  
 畑地かんがい受益地内に畑かん利用を波及させ、賢く稼げる農業を実現するため、新た  
 な畑かんマイスターとなりうる農業経営体の畑かん営農へのチャレンジを支援する。

○ 畑かん営農ポテンシャル向上事業（174万円） 1,816千円【畑かん営農推進担当】  
 加工・業務用野菜等の生産の安定化を図るため、畑かん営農に必要な散水器具の設  
 置・撤去や給水栓の開閉作業等に係る省力化技術を進歩させるとともに、畑かん営農によ  
 る新たな付加価値を創出する。

○ 国営土地改良事業負担金 1,487,733千円【畑かん営農推進担当】  
 農産物の品質向上や高収益作物の導入などにより農業経営の安定・向上を図るため、畑  
 地かんがいの用水などの農業用水を安定的に供給する国営かんがい排水事業を推進する。

農村計画課  
 直通電話番号：0985-26-7128  
 FAX番号：0985-26-7343  
 E-mail: nosonkeikaku@pref.miyazaki.lg.jp

# 新 基盤整備プランニング事業

農村計画課 3,000千円  
【財源：中山間ふるさと保全基金、一般財源】

## 事業の目的

整備後のイメージ図作成等を支援することで、基盤整備事業の機運醸成および実施につなげ、農地の区画拡大を通じた集積・集約化による地域計画の実現を目指す。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① 基盤整備図面作成  
基盤整備の推進に向けたイメージ図を作成
- ② 基盤整備推進マニュアル作成  
基盤整備の効果や対象事業の内容を整理し、推進マニュアルを作成



### (2) 事業の仕組み

- ①②県  県土改連

### (3) 成果指標

地域計画策定を契機に、基盤整備の推進に取り組むモデル地区数  
現状（令和4年度）－ → 令和8年度 モデル44地区

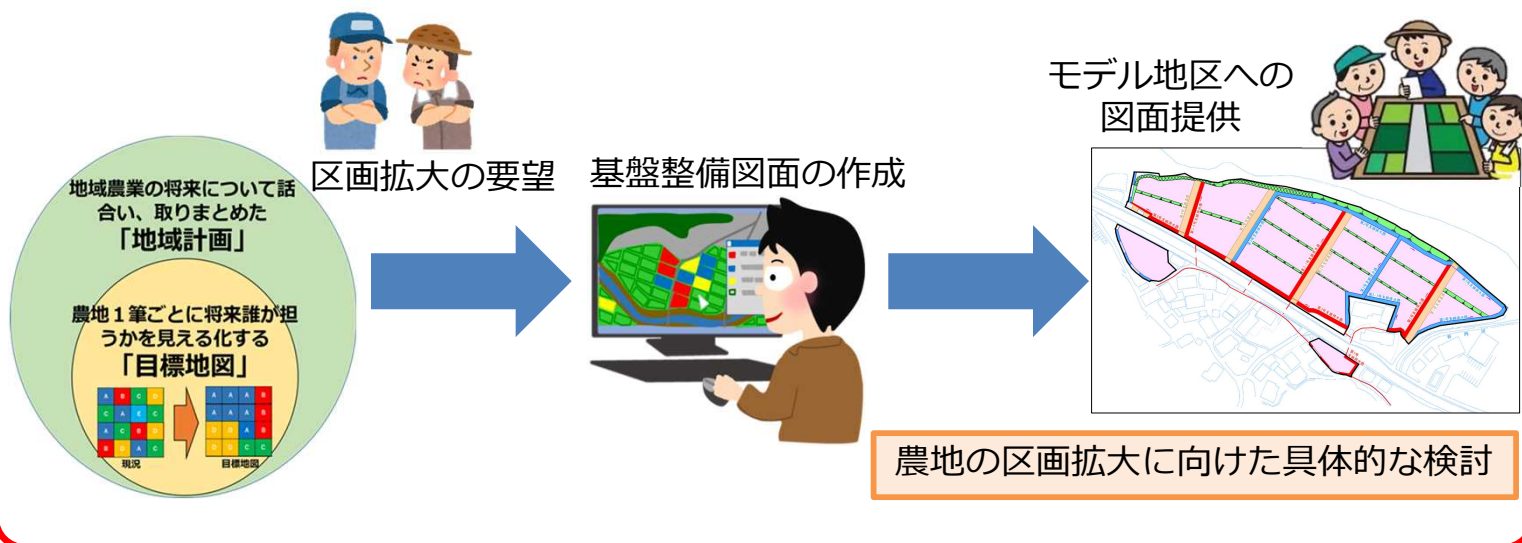
## 事業の期間

令和6年度～令和8年度

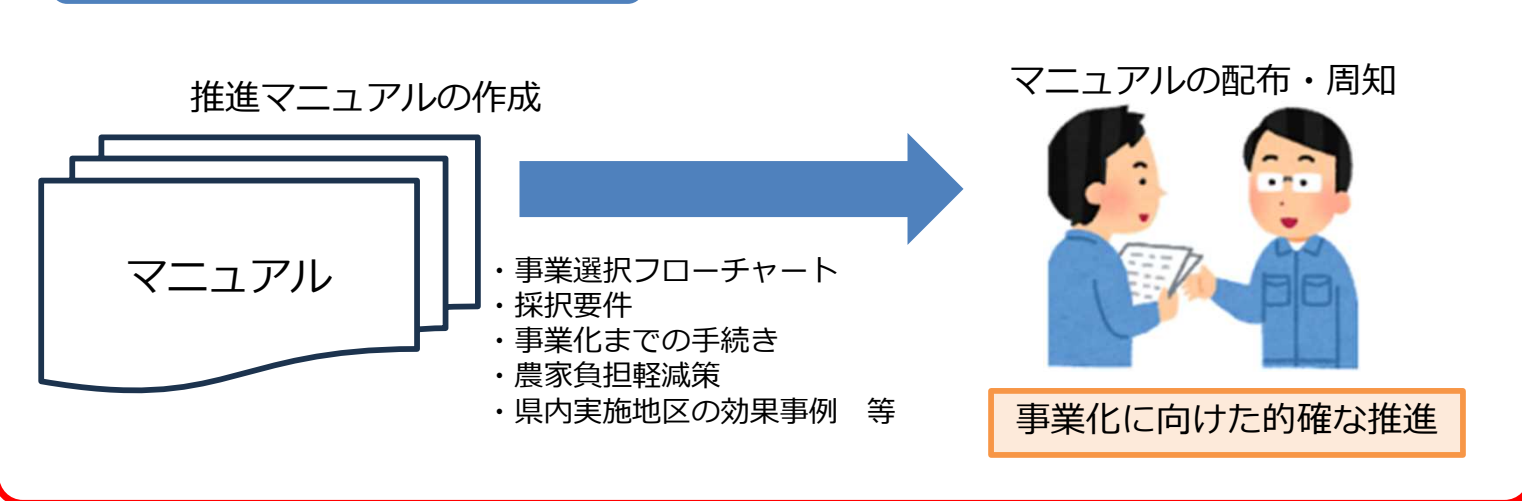
# 【別紙】

# 新 基盤整備プランニング事業

## ① 基盤整備図面作成



## ② 基盤整備推進マニュアル作成



# 改 農業土木の魅力発信・人材確保事業

農村計画課 1,991千円  
【財源：一般財源】

## 事業の目的


近年の「激甚化している自然災害時の農地や農業用施設等の復旧・復興」や「スマート農業に対応した農業生産基盤の整備等」を担う、県内で活躍する官・民を含めた農業土木技術者の人材を確保する。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① 人材確保に係る広報活動  
農業土木分野を学ぶ県内の高校及び九州管内の大学への広報活動
- ② 体験型魅力発信活動（拡充）
  - ・小中高および大学における学外研修（県内の現場研修）への助成(借上げバス等)
  - ・県内の小中高生を対象に、農業土木分野の魅力発信を主とした「官民共催」のイベント等の実施
- ③ 農業土木分野の職種紹介のための啓発活動  
県内の農業土木技術者の協力のもと、パンフレットやポスター、啓発動画等を制作し、農業土木分野の普及活動に活用

### (2) 事業の仕組み

- ①②県 ③県  民間企業

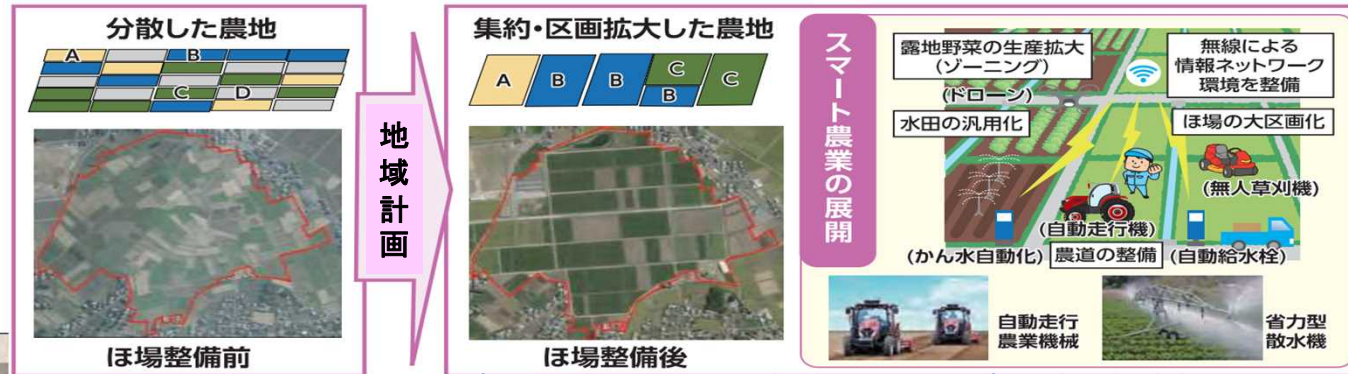
### (3) 成果指標

農業土木技術者のイメージアップ（アンケート）	令和5年度	—	→	令和8年度	70%以上
県内就職希望者アップ（農業高校（農業土木））	令和5年度	—	→	令和8年度	70%以上

## 事業の期間

令和6年度～令和8年度

# 【別紙】 ② 農業土木の魅力発信・人材確保事業



スマート生産基盤の確立による産地改革



## ① 人材確保に係る広報活動

- ・ 高校及び大学へ、社会における農業土木分野の役割や意義について広報活動を実施

## ② 体験型魅力発信活動 (拡充)

- ・ 県内の小中高生を対象に、農業土木分野の魅力発信を主とした「官民共催」の測量体験や現場見学会等のイベントを実施

## ③ 農業土木分野の職種紹介のための啓発活動

- ・ パンフレットやポスター、啓発動画等を制作し、農業土木分野の普及活動に活用



# 畑かん活用農業経営体チャレンジ支援事業

農村計画課 5,378千円  
【財源:中山間ふるさと保全基金】

## 事業の目的

畑地かんがい受益地内に畑かん利用を波及させ、賢く稼げる農業を実現するため、新たな畑かんマイスターとなる農業経営体の畑かん営農へのチャレンジを支援する。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

#### ① 支援事業

- ・新たな畑かんマイスターの育成を目的とした研修会や現地実証ほ視察等による技術の継承、最新の省力型散水技術の普及促進
- ・ひなたM A F i Nや畑かん振興大会等による畑かん効果のP R

#### ② 県推進事務費

### (2) 事業の仕組み

① 県  民間企業

### (3) 成果指標

新たな畑かんマイスター育成数  
畑地かんがい施設水利用免責

## 事業の期間

令和4年度～令和6年度



# 【別紙】 畑かん活用農業経営体チャレンジ支援事業

現状と課題

- 農家数の減少・高齢化
- 加工・業務用野菜等のニーズの増加
- 畑かん整備中の地区には、畑かんを活用したことがない農業経営体が多く存在

対応

- 担い手となる大規模農業経営体の育成
- 加工・業務用野菜等に対応した産地体制の構築
- 畑かん整備中の地区で畑かんを活用して牽引する農業経営体の早期育成

畑地かんがいを活用する農業経営体を増やし、畑かん受益地内に畑かん利用を波及させるため、畑かんマイスターとの連携を強化しながら、農業経営体の畑かん営農へのチャレンジを支援するとともに広くPRを行うことで、畑かんを活用した賢く稼げる農業を実現する。

取り組み内容

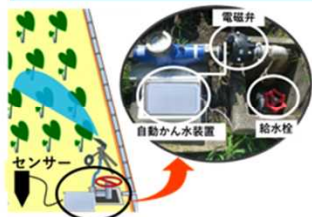


① 研修会や現地視察等（畑かん効果、技術の継承）



畑かんマイスターとのネットワークの構築

② 省力型散水技術の普及促進



最新の省力型散水技術の実装支援

さといもの事例（西穂地区）  
10a当たり収量と収入額の比較



収量向上技術のマニュアル化

③ ひなたMAFiN等による畑かん効果のPR



HPやSNSによる情報発信

効果

○加工・業務用等野菜等の産地育成

○収益の向上

# 新 畑かん営農ポテンシャル向上事業

農村計画課 1,816千円  
【財源:中山間ふるさと保全基金】

## 事業の目的

加工・業務用野菜等の生産の安定化を図るため、畑かん営農に必要となる散水器具の設置・撤去や給水栓の開閉作業等に係る省力化技術を進歩させるとともに、畑かん営農による新たな付加価値を創出する。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① 散水省力化技術構築事業  
民間企業（散水器具メーカー、コンサル企業等）との連携による  
スプリンクラー設置・撤去や給水栓開閉に係る労力削減技術の構築
- ② 散水省力化技術推進事業  
散水チューブ巻取機等の貸出しによる体験機会の創出
- ③ 畑かん水付加価値創出事業  
畑かん水の成分や散水後の土壌状態を調査・分析し、農作物や栽培管理に  
与える影響との関連性を検証することにより、畑かん水の新たな付加価値を創出



### (2) 事業の仕組み

- ① 県 委託 民間企業      ②③ 県

### (3) 成果指標

散水省力化技術導入戸数      現状（令和4年）2戸 → 令和8年 14戸

## 事業の期間

令和6年度～令和8年度

# 【別紙】 新 畑かん営農ポテンシャル向上事業

## ① 散水省力化技術構築事業

官民連携による省力化技術の構築



技術の実用化

## ② 散水省力化技術推進事業

省力型散水器具の体験機会の創出



利用者の増加

## ③ 畑かん水付加価値創出事業



畑かん水成分分析



土壌分析

植物体分析

農作物分析

【見込まれる効果】

- ・病害虫抵抗性
- ・肥料成分の補足
- ・野菜内部品質向上

新たな価値創出

畑かん営農拡大による加工業務用野菜産地の確立



